

編集ノート

樽本「曾孟樸の初期翻訳(下)」は、紙幅の都合で次号に掲載(予定)します。「清末民初小説目録」は現在どうなっているか、お知らせしよう。2002年、中国で刊行した新編増補版には、約19,000件を収録した。あれから不断に増補を続けている。複数の研究者が指摘してくださる。その結果、変化したのは、新聞掲載の小説を大幅に追加したことだ。研究環境がいくらか改善されたのがひとつ。新聞のマイクロフィルム化が進んだ。以前には閲覧不可能であった新聞が利用できる。ふたつ、ここに目をつける研究者も増えている。晩清小説目の先鞭をつけた阿英の視野からは見えなかった分野だ。中国の研究者が公表した新聞小説目録も利用させてもらった。そうして小説目録は、現在約4,800件の増加になった。問題は、これをどのように公開するかだ。ネットを見ていて、ある中国のウェブサイトが目にとまった。私の齐鲁書社版小説目録がスキャナで複写され自由に利用できるという。これには驚

いた。なにしろ1千頁をこえる小説目録だ。スキャナで複写する労力を考えれば、実物を購入するほうが手間がかからないのではないか。ご苦労なことだ。しかし、考えてみればウェブで使用するかたちが時代の趨勢であるようにも思う。紙に印刷して手触りを楽しむことはやめることができない。だが、専門家しか利用しない内容の書物であれば、最初から電字版として考えるのもひとつの方法だ。欧米では、学会誌を電字版に切り替えている実例がある。印刷費用を節約し発送の手間を削減するためだ。保存用の場所もとらない。CD-ROMは、少部数発行に最適だ。本研究会でも基本的に電字版に切り替えた刊行物がある。季刊誌『清末小説から』だ。電字版であれば、頁数の制限を気にする必要はない。とはいいいながら、本誌をすぐさま電字版にするという意味ではない。将来のかたちとしては可能性がある、というだけのこと

清末小説 第33号

定価 3,150円(本体3,000円)

発行 2010年12月1日

発行兼編集人 樽本照雄

発行所 清末小説研究会

〒520-0806 JAPAN 滋賀県大津市打出浜

8番4-202 樽本方

郵便振替 00990-6-40475

<http://www.biwa.ne.jp/~tarumoto>

印刷所 木村桂文社